

平成30年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

牛久市 解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	牛久市の市章は1960年(昭和35年)7月1日に制定されました。全国から公募した約1,000点の中の当選作です。「牛」を大鵬(おおとり)の両方の翼に見立て、「久」はカタカナのクを円形にまいて、協力と円満を示しています。	3
2	「牛久の日給食」は、乳製品以外の食材を全て(100パーセント)牛久産に限定した給食です。また、当日は生産者を学校に招待して、児童・生徒と一緒に給食を味わってもらうという機会を設けています。	4
3	江戸時代、幕府は農業生産を増やすために治水(ちすい)や開墾(かいこん)を奨励(しょうれい)したため、利根川や小貝川の治水工事などが土木工事が盛んに行われました。牛久沼では、 桜井庄兵衛 (さくらいしょうべえ)という豪農が干拓(かんたく)に挑みましたが、工事中の相次ぐ氾濫(はんらん)などや周辺農民の反対運動で干拓は失敗に終わりました。しかし、一部干拓された土地が現在も庄兵衛新田という地名で残されています。	1
4	現在牛久市で最古の石器は、ひたち野牛久地区の馬場(ばば)遺跡や隼人山(はやとやま)遺跡で見つかったナイフ形石器です。この石器は、その特徴から約3万年前の 旧石器時代 のものと考えられています。	2
5	牛久市の水道は、水源が 利根川 の牛久配水場と、霞ヶ浦と利根川が水源の若柴配水場(龍ヶ崎市)から供給されています。	4
6	平安時代末期、奥州で起こった「後三年合戦(ごさんねんかつせん)」で活躍したとされる鎌倉権五郎景政は、奥州(現在の東北地方)から故郷の鎌倉へ帰る途中、牛久の 桂町 付近を通過した際に、敵の攻撃を受け、桂川へ転落死したという伝承が残されています。	2
7	蛇喰古墳 (じゃばみこふん)は、神谷2丁目にある全長約45メートルの市内最大の前方後円墳で、埴輪(はにわ)などは出土していません。古墳時代後期に造られたと考えられており、後円部の墳頂(ふんちょう)には稲荷神社の祠(ほこら)が祀られていました。	3
8	うしくっぱ祭りは、1981年(昭和56年)から始まった牛久市内最大の祭りで、例年7月の最終土日に開催される夏の風物詩です。祭りのメインであるかっぱやし踊りパレードは、2日間で1万人以上の踊り手が、「 やっぺやっぺ 」のはやし言葉とともに花水木通りを練り歩きます。	1
9	国指定重要文化財シャトーカミヤ旧醸造場施設(きゅうじょうぞうじょうしせつ)は、1903年(明治36年)に日本初の本格的なワイン醸造場が初代 神谷傳兵衛 (かみやでんべえ)によって建てられました。かつて、旧事務室2階では著名人(松方正義(まさよし)、大山巖(おおやまいわお)、児玉源太郎(こたまげんたろう)、板垣退助(いたがきたいすけ)など)を招いたワインパーティが催(もよお)されていました。	2
10	女化分教場(おなばけぶんきょうじょう)は、子どもたちの教育の場だけではなく、地域の人びとの集会場としても利用されました。現在の校舎は 1939年 (昭和14年)に建てられ、1972年(昭和47年)に閉校するまで多くの子供たちが利用しました。	4
11	茨城県観光百選にも選ばれている牛久沼は、うな井発祥(はっしょう)の地としても知られており、毎年 ウナギ や ヘラブナ などが放流されています。	2
12	牛久大仏(正式名称:牛久阿弥陀大佛)は、青銅製大仏立像で、全高 120メートル (像高:100メートル、台座20メートル)あり、立像としては世界第3位、青銅製立像としては世界最大を誇ります。建てられたのは1989年(平成元年)です。	4
13	あんパンは、現在の牛久市出身の 木村安兵衛 が1874年(明治7年)、東京銀座尾張町(現東京都中央区銀座)の「木村屋」で製造販売したのがはじまりです。当時のオランダ仕込みのパンは固く、まんじゅうや団子などに慣れた日本人には不向きのため、ふっくらしたパン作りに工夫を凝らし、酒まんじゅうをヒントに、パンの中に餡(あん)を詰めたことが、元祖あんパンの誕生とされています。	3
14	自由と平等を訴えた女流作家として有名な 住井すゑ は、農民解放を目指した農民文学者・犬田卯(いぬたしげる)と結婚し、夫の郷里である稲敷郡牛久村城中(現在の牛久市城中町)に転居しました。夫の死後、56歳で『橋のない川』の執筆を開始し、自由と平等を求めて差別と闘うこの物語は、 ロングセラー となり、後に映画化されました。	1
15	毎年成人の日(1月8日)に開催されている 牛久シティマラソン は、市民の健康増進と地域の連帯を深めることを目的とし、2018年(平成30年)1月8日(成人の日)に開催されます。	3
16	五十瀬(いそせ)神社には、1923年(大正12年)に建てられた「酒島村霊泉之碑」が建ち、神社側の井戸から 酒 が湧き出たとの伝えがあり、下根町・中根町・東大和田町を酒島村と称していました。	2
17	1629年(寛永6年)、1621年(元和7年)以来幕府領となっていた牛久周辺の旧由良氏領のうち3,300石程度が山口重政に与えられました。以降、廃藩置県までの250年間、牛久市域西部を中心に統治しました。 山口氏 の牛久藩は、譜代(ふだい)の極小藩で、石高は10,017石余り、水戸街道の牛久宿に隣接する城中村(現在の城中町)に陣屋を置いて支配しました。	4
18	国民体育大会(国体)は、都道府県持ち回りで行われる国内最大のスポーツ大会で、茨城県では45年ぶりの開催となります(前回は昭和49年開催)。牛久市での開催競技は、軟式野球と 空手道 が予定されています。	1
19	2015(平成27)年に開局した牛久コミュニティ放送は、牛久市・阿見町・つくば市・龍ヶ崎市・稲敷市・美浦村・土浦市の一部地域を放送区域とするFM放送。スタジオは牛久市保健センター2階で、周波数は 85.4MHz です。	3
20	牛久沼は龍ヶ崎市にある小貝川支流に含まれる沼です。牛久市と同じ名前ですが、牛久沼全域が龍ヶ崎市の区域内となっています。牛久沼周辺の自治体としては、龍ヶ崎市・牛久市・つくば市・取手市・つくばみらい市です。	2
21	団子念仏 は、桂町で毎年、秋の彼岸の入りの前日に行う行事で、各家で団子をつくり金剛院へ供え、金剛院にある大きな数珠を出し、鉦(しょう)と太鼓(たいこ)を叩きながら念仏を唱えます。団子念仏には、先祖供養、悪疫払い、家内安全、五穀豊穡の意味があるといわれています。	4
22	平成29年1月から公募を行なった平成32年4月開校予定の新設中学校名は、応募総数265件・92種類から「 牛久市立ひたち野うしく中学校 」に決定しました。	1
23	今年で29回目を迎えた うしく・鯉まつり は、毎年5月3日(憲法記念日)に行われています。牛久市役所と西側の近隣公園にて、夢の広場、希望の広場、創造の広場、自由の広場などの各エリアで楽しいイベントが催されており、多くの市民が集う機会となっています。	2
24	2017年(平成29年)3月現在、牛久市の人口は約 8.5万人 です。20年前の平成7年は約6.5万人なので、人口が約2万人増えていて、常磐線沿線の市町村では唯一人口増加をし続けています。	3
25	雲魚亭 (うんぎょてい)は、小川芋銭の最晩年に建てられた、住まいを兼ねたアトリエです。芋銭が雲魚亭へ入居したのは昭和12年の秋で、間近に迫った展覧会の作品制作や『河童百図』刊行のため、多忙な日を送りました。しかし、年が明けた1月末に脳溢血(のういつけつ)で倒れ、同年12月に亡くなりました。現在は、市の文化財に指定され、「小川芋銭記念館」として一般に開放されています。	4